

長野県食と農業農村振興審議会南信州地区部会議事録

1 日 時

令和4年7月4日(月)午後2時から4時まで

2 場 所

長野県飯田合同庁舎 講堂

3 出席委員

古田和夫（長野県農業経営者協会下伊那支部長）
宮澤千文（長野県農村生活マイスター協会飯伊支部長）
高坂つかさ（阿智村 農業者）
木下義隆（飯田市 農業者）
高田清人（南信州農業委員会協議会長）
北原とし子（長野県農業委員会女性協議会下伊那支部長）
塩澤 昇（みなみ信州農業協同組合常務理事） 部会長
原 昭章（長野県小渋川土地改良区理事長）
小澤めぐみ（飯田下伊那栄養教諭・学校栄養職員部会代表）
河合伊津子（(有)あちの里 取締役）
松江良文（飯田市産業経済部農業課長）

4 次 第

- (1) 開 会（南信州農業農村支援センター所長 佐々木直人）
- (2) あいさつ（南信州地域振興局副局長 小川浩幸）
- (3) 第3期長野県食と農業農村振興計画の概要について
- (4) 会議事項（議長：部会長 塩澤昇）
 - ア 令和3年度南信州地域取組実績について
 - イ 令和4年度南信州地域の実行計画について
 - ウ 第4期長野県食と農業農村振興計画の骨子（案）について
 - エ 長野県食と農業農村振興計画の推進に関する意見・提言
- (5) 閉会（南信州農業農村支援センター所長 佐々木直人）

5 意見交換

- (1) 令和4年度南信州地域の実行計画について

【高田委員】

- ・重点取組3の白ねぎ等新品目の作付け推進について、ねぎは連作障害がでると次の農地が必要となります。遊休農地等を使っていた中で、失敗した例ですが、排水性が悪く、再度遊休農地になってしまったことがありました。畑地用には、排水対策など条件整備への対応が必要と考えます。
- ・飯田市でしめじ栽培が始まってから約50年経ち、以前はきのこ農家が200～300軒あったが減少し、何が足りないのかと自分で反省するに、地元へのPRがその品目を伸ばしていくには大きな力になると思います。きのこに限らず、以前は農協や市町村単位で即売会等の機会がありました。そういう時代ではなくなったということもあり、マスコミ等々を使うなど、地産地消のため南信州の良いものをPRしていく方法を検討したいと考えましたのでよろしくお願

いたします。

- ・昨今の資材高騰、また電気料の値上がりにより経営が圧迫されている現状があり、何か支援策等ないか、ご教示お願いしたいと思います。

<農業農村支援センター>

- ・これから白ねぎの面積を増やしたい、また、新規に取り組みたいという方につきまして、優良農地が栽培希望者のところにまわるように、各市町村、JA と連携する中で支援していきたいと思いますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。
- ・地元への PR については、一緒に方法を検討し、進めてまいりたいと考えます。
- ・当センターでは、この資材高騰に関します相談窓口を設置しています。電気料高騰対策については、担当部局へ確認して回答します。

【古田委員】

- ・日本なし樹体ジョイント栽培がなかなか増えてこないという原因の中に、ジョイントの接ぎ木のやり方が下手なのか、うまくいかないという人が多くて、技術導入を躊躇する人がいます。ほかにも早期多収の方法、例えばもう少し間隔を狭く植えて、だんだん間伐していくとか、下伊那独自の方法が検討できれば興味深いです。

<農業農村支援センター>

- ・日本なし樹体ジョイント栽培については、苗木が確保できなかつたり、接ぎ木の失敗、白紋羽病による樹勢衰弱や枯死が原因で成園化が難しいという事例があります。そういった中で、密植のまま接ぎ木をしない栽培に一部チャレンジされているような方もいらっしゃいますが、どの程度の生育で収めることができるのかなど不明な点が多い状況です。ジョイント栽培は樹形的には単純で現状では一番わかりやすく、新たに始めた生産者も管理が楽で、早期多収が達成可能な技術です。現地の事例も見ながら、生産者になるべく取り組みやすい方法を今後も検討してまいりたいと思います。

【宮澤委員】

- ・子どもたちへの食育について、昨年市田柿のおやつ作りを計画しましたが、コロナ禍でできず残念でした。若い人は割と市田柿を食べないのかなと思いますので、今年は可能であれば機会を多くして頂き、子どもたちとその親にも PR したいです。できるだけ農村生活マイスターの方でも協力したいと思います。

<農業農村支援センター>

- ・非常に良い提案をいただきましてありがとうございます。昨年度は、コロナの関係で、半分の学校からお断りがきまして、前半しか実施できませんでした。地域の柿というものに対する文化を理解していただく、食育は大切な取組の一つです。特にご両親との関係は非常に大事ですので、家へ持って帰って、こういうことを学校で勉強したよと、親子で共有できるような取組にしたいと思います。

【松江委員】

- ・1 日農業バイトについて、JA 長野県農業労働力支援センターが構築したスマホアプリと記載がありますが、他県で既に活用していたアプリを全国展開し、それを導入したという認識ですので、ご確認ください。

<佐々木所長>

- ・1 日農業バイトのアプリについて、民間事業者が開発したものを、JA 長野県農業労働力支援センターが導入しました。訂正をお願いしてお詫びを申し上げます。

(2) 第4期長野県食と農業農村振興計画の骨子(案)について

【古田委員】

- ・なしを1haくらい作っています。昭和50年代に構造改善事業で石仏団地16ha、長野県で一番大きい団地ということで、ひときわ有名になったことがありました。最盛期は幸水の収量が10aあたり4tから5tのときもありましたが、もう45年経過し、老木化してきました。今それを一生懸命だましだまし栽培して、大体2.5tから3tと半分ぐらいの収量です。その原因は老木化とか紋羽病とか諸々ありますが、何とか収入を上げていこうと持続した結果、ほ場が混雑し、本当にやりにくくなってきました。先ほどからのジョイント栽培へ移行したいと思いますが、その間の5年ぐらいは多分収入が上がってこないということでいろいろ考えてしまいます。この飯田下伊那でも、新しく新植したなし園やジョイント栽培農園はほとんど見たことがありません。
- ・今回6月30日に発足しました南信州日本なし再生プロジェクトという、とても素晴らしい企画が立ち上がったということで、僕たちもしっかりと協力し、生産者、また関係者の皆さんが一丸となって盛り上げて、もう一度飯田下伊那が産地になるように実現させていきます。自分よりりんごよりなしの方が儲かるんじゃないかと思えますし、なしとかきの組み合わせの提案とか、お金が貯まる提案ができると期待しています。

【宮澤委員】

- ・平成元年からJAにお世話になり、私の家ではダリアを中心に多品目の花を栽培しています。おかげ様で私たち夫婦には後継者がいます。今は経営は別でユウカリを中心に違う品目の花を栽培しています。
- ・昨年は、コロナ禍の中、花きの販売など大変心配しました。おかげ様でJAが計画していただき、女性部の人たちと地元の花を使ったアレンジ教室を行ったり、贈答用の花束をネットなどで販売していただきました。大変好評で、PRして下さったことに感謝です。
- ・これから先、後継者問題があります。若い人が農業に興味をもってもらうこと、楽しくできる農業、儲かる農業を目指し、経営継承した後の支援制度などについても、農業農村支援センター、JAの皆様のしっかりとしたお力添えを心からお願いいたします。

【高坂委員】

- ・私の所属する南信州 hatake*girls は農業に携わる女性の集まりで、自分自身が就農した際、農家のパートナーの会に参加して、その縁で仲間に入り、交流会を企画し、情報交換などをして

います。私自身は 15 年ほど前に夫の実家に U ターン就農して、米と野菜を生産しています。

- ・コロナで出来ていないのですが、関西圏の中学生の民泊や地元の中学校の職場見学の受け入れなどするようになりました。10 数年先の農業関係人口を増やすためには、小学生や未就学児だけでなく、中高生、高校生とか学生へのアプローチも必要ではないかと思います。一つは農業への関心を高めること、もう一つは仕事として農業を職業として選択できるように、PR していかなければいけないと思います。就農に限らず、農業法人への就職も含みますが、自分のところも毎年すごく苦勞しています。ハローワークに出したり、農業求人サイトに掲載していますが、問い合わせはほぼ県外、都市からの若い人ばかりです。地元の子供たちに農業のいいところをもっと知ってもらう機会を作らなければならないと常に感じています。それと同時に、雇用する側として他の産業と比べて劣らないような雇用体制をしっかりと作っていかなければいけません。そうすることで選択肢の一つになってくると思っています。都市部の若い人たちが農業に関心があることは実感していて、そういう方たちの受入をこの先増やしていくことも必要だと思います。どのように話をすれば伝わるかとか、どのような体験をしてもらえれば、より農業の魅力が伝わるかそういうのを身につける機会があればぜひ、参加して勉強してみたいと思っています。

- ・学校給食に地元のものを使うのはとても大事なことだと思っています。実際自分が保育園や学校の給食にだいこんやキャベツを出したことがあります。すごく手間がかかることで、ボランティアの片手間ではとてもできません。誰が発注して、誰が集荷に来て、誰が生産するのか、そういう具体的なところを一貫して担う人をきちんと配置すれば、現実的にできるようになると思います。

<佐々木所長>

- ・古田委員から、特に先日立ち上げたなしのプロジェクトの是非成功をという力強いお言葉をいただきましたので、今後関係機関と一緒に取組んで参りたいと思います。改植後 5 年間収入が上がらないことへの対策としまして、果樹の場合は未収穫期間に対するの国の支援制度もございまして、ご検討ください。

- ・宮澤委員からのご意見につきまして、花に限らず様々な農産物について、関係機関の皆様とも協力しながら場面を捉えながら PR に努めてまいります。担い手の確保育成につきましては、引き続き重点的な取組みとして位置づけてまいります。

- ・高坂委員から、特に小学生中高生のアプローチが必要とのご意見につきまして、先日下伊那農業高校の先生や経営者協会と意見交換する場がございまして、校長先生から、もっと農業の魅力を PR していく必要があるというご意見がございました。高校生以下の小学生中学生への食育農育は今も取り組んでいますが、まだ不足していると感じましたので、その点についても次期計画策定に向けて検討してまいります。また、学校給食については、以前取組みをされている農家の方と意見交換する場面がございまして、やはり同様のご意見がございました。誰が繋ぐかという部分が課題だと認識しておりまして、次期計画の策定に向けて検討を進めてまいります。

【木下委員】

- ・飯田市で果樹を中心に栽培しています。PAL ネットながのという長野県全体の組織に所属し、

また JA 青年部や若手の農業者団体にも入っています。家の周りでも園地が空いてきて、自分で経営可能な面積は限られているので、後継者不足は感じます。市田柿は年々栽培が難しくなっていて、以前に比べて柿の色味具合が変化してきているように感じて、この先 5 年 10 年先本当にうまく作っていけるのか不安もあります。青年部で勉強して、それぞれのレベルを上げるような取組をしたいと思っております。また、高校の出前授業や料理コンテスト等の機会があるので、農業に関心を持ってもらえるようなことを伝えるなど、興味を持って、将来就農する人が増えるように、今後も頑張っていきたいと思います。

【高田委員】

・人・農地プランに関連して、飯田下伊那は中山間地で一つのほ場が非常に小規模で次代への継承が難しいので、区画整理が必要です。また多面的機能直接支払について、高齢化で取組自体難しいですが、頑張っています。お金の事務が非常に難しいので、もう少し事務の簡略化をお願いしたいです。農業者だけで農地を守っていくことは非常に困難です。引き続き、国全体として、農業を含めた地域作り、農地や国土保全への支援をお願いします。

【北原委員】

・荒廃農地が増加して問題だと思います。勤めながら農業に従事する人が大勢いますが、定年延長で 65 歳を過ぎてから農業することは難しく、60 歳定年ぐらいで農業するような体制ができると、荒廃農地が減るのではないかと思います。

・婚活支援をするなかで、ほかの職業でも同じですが、農業者が結婚して、配偶者がいて、家族のために頑張れる、そういう意味で農業者支援のための活動ができるといいと思います。

・私は飲食店を営んでいます。今、世界情勢として小麦粉などの値段が上がり、原価上昇で経営が難しいです。パンが値上がりして、普通の家庭で食べられなくなるのではと思います。子供の頃、麦を作っていた記憶があり、多分大麦だったと思いますが、長野県内でパン用小麦は栽培できないのかと思います。米農家がお米を作ってくれるのですが、消費者の立場として、普通の家庭でパンの占める割合は多く、国産の小麦粉ができれば、世界情勢に左右されにくくなると思います。

<佐々木所長>

・木下委員から、地域の園地が空いてきても、これ以上規模拡大難しく、園地継承をどうしたらいいかのご意見いただきました。地域の中で継承できれば一番いいですが、例えば企業の農業部門が継承する事例も出てきています。次期計画の中で多様な担い手と表現していますが、優良園地を継承していく取組が必要と考えております。また高校への出前授業等活動へのお取組につきまして大変ありがとうございます。若手のグループの中で、若い皆さんが関心を持っていただくような活動を継続してお取組いいただきたいと思っております。

・高田委員からのご意見につきまして、国が人・農地プランを法定化し、基盤法の地域計画と農山漁村活性化法による活性化計画の二つの計画で地域の農地の在り方を位置付けていくとしています。具体的には、守るべき農地と、山手の近いところは場合によっては林地化するなど、線引きをしていくために、地域の話し合いのもとで取り組んでいくことが必要です。

・北原委員からは荒廃農地対策について、先ほどのなし再生プロジェクトでは、例えばお勤めさ

れてる方であっても家でなしを栽培している方がいて、副業で勤めながらという方も新たな担い手のターゲットとしていくことも検討しております。また、長野県では用途ごとに小麦の品種を開発していきまして、パン用とか中華麺用などの品種がございます。国産小麦につきましては、食料自給率を上げるとの観点、あるいは食料安全保障という点でも大事であると思っています。小麦の作付け等につきましては、今後、作付け段階から実需者との調整が必要になってまいります。婚活については、後継者グループが開催する交流会の取組など、支援センターでもお手伝いできる場所があれば、協力していきます。

<農地整備課 市瀬課長>

・高田委員からご意見のありました基盤整備につきまして、大きいほ場整備ばかりが基盤整備ではなく、地域の実態に合ったやり方がありますので、個別にご相談ください。多面的機能支払につきまして、今回の5か年の目標は達成できない見通しとなっております。要因はいくつかありますが、一つは事務手続きの煩雑さがあり、昔からの活動組織の皆様からお聞きすると、昔に比べればだいぶ楽になったとお聞きしておりますが、まだ改善できる場所があると思いますので、引き続き国の方へも提言してまいります。ほかの要因としては、プレイヤーが少なくなってきたことが大きな問題で、これは農業に共通する話ですので、引き続き皆様方と一緒に考えてまいります。交付金の使い道の拡大の件につきましては、国の方へ繋げてまいりますので、遠慮なく現場の声をお聞かせください。

【原委員】

・小沢川土地改良区の立場としまして、竜東一貫水路が完成以来半世紀以上経っており、維持管理が非常に困難を極めています。現在、国及び県などの支援により長寿命化対策をしていただいているところです。一貫水路は650ヘクタールの農地を、高齢化してきたとはいえ、約1,800人名の組合員がいて、農業振興に貢献しているところです。農協出荷はもちろん、直売、学校給食と、それぞれの立場で一貫水路の水を有効利用しておりますので、引き続き、県としまして、長寿命化にご協力をいただきたいところです。それから、新たな取組として水路を利用した小水力発電などを考えていく時代になってきたと思っています。また、竜東地区では後継者不足で荒廃地が増えてきたところ、最近、農業法人によるりんごやかき栽培への参入があり、期待を寄せていますので、こちらへの支援についてもお願いします。

【小澤委員】

・飯田下伊那栄養教諭学校栄養職員部会は、飯田下伊那の小・中学校の給食の管理をしています。栄養士が合わせて31名おります。飯田市の学校給食では、今、米、にんじん、ねぎなどは、ほぼ1年間地元産のものを使っています。併せて今の時期は、きゅうり、キャベツ、たまねぎ、じゃがいもなど地元の野菜をたくさん入れています。これは生産者の皆様、農協、八百屋、いろいろな方々の努力のおかげで、学校給食で新鮮で美味しい野菜を使うことができます。飯田市以外の郡部でも、たくさんの地元の野菜、地元のお米、牛乳などたくさんの農産物を使っております。

・安定的に使うというのは、本当にたくさんの方にお手伝いしていただかないとできない難しい部分があります。予定していた材料と量が必ず届かないと、その日の給食を作ることができま

せん。大ききなど難しいことをお願いしておりますが、その分大切にに使わせていただいています。

- ・給食を教材にして、郷土食としては五平餅、市田柿、凍り豆腐、こういったものが私達の住んでいるところにはあって、私達の自慢の食べ物を子供たちに伝えています。十分伝えきれていない部分もありますけれども、子供たちに楽しく食べながら、自分たちの地域にあるもの、地域の産業を知ってもらって、そして、地域を愛する、地域を大切に思う心、食べる大切さと一緒に伝えていきたいと思っております。今年度はたまたま3年に1回の食に関する実態調査を小学5年生と中学2年生で行います。この質問項目の中にも地場産物、郷土食の項目について子供たちに質問をしていて、調査結果を楽しみにしているところです。皆様が本当に一生懸命農業を大切に守り、作ってくださっている野菜を、今後も子供たちに精一杯伝えていきますので、ぜひたくさんの情報をいただければと思います。

【河合委員】

- ・地元の農産物を加工しています。昔からの作り方、味などの漬物、惣菜を作っています。例えば、昔からのカリカリ小梅、お茶請けの焼酎漬けを作っていますが、原材料がなかなかありません。80歳ぐらいの人が、「うめ」があるからと言ってくれれば、消毒もさせてもらって、自分たちで収穫に行きます。80歳だから10年先がどうなるのか心配で、増えることはないです。他の材料も契約栽培で頼まないと調達が困難で、赤根大根は本当に契約で栽培してもらわないと、材料が入りません。農産物を集めて、確保していくことは大変な仕事ですが、原料確保にも目を向けていただきたいと思っております。
- ・それから「龍江はちくの会」からの受託で学校給食に使う「たけのこ」をここ3年くらい加工しており、今年は7tを全部水煮で納めました。地元の人たちが集めて、良い取組だと思いました。下伊那農業高校の生徒が職場実習に、毎年夏休みに3日間3人くらい来ております。今年は暑いので秋になりました。他にも阿智村の小中学生の職場見学や実習も受け入れています。

【松江委員】

- ・次期長野県食と農業農村振興計画につきましては、全体計画が非常に明るいトーンで書かれていて、皆が憧れ、稼げる信州の農業とか、魅力あふれる信州の食とか、農に対して非常に前向きで希望が持てる表現がされていると思います。いずれも持続可能な社会を作っていくということが非常に大切と思っております、常に意識しているところです。
- ・実際問題は、先ほど企業法人とか、担い手が借りきれものでもないよという話があり、特にこの地域は中山間地域で、非常に集約的な農業がやりにくい土地ですので、事実として遊休農地が増えています。また小規模な農家、あるいは兼業農家が非常に多いという特徴もあります。農村を支えているのはその地域に住む皆さんですが、企業だろうが小規模だろうが、その地域を維持していく中では、農業者というのは非常に重要な立場にあると思います。特に小規模とか兼業農家は、農業を続けていくのが難しい状況にあります。新規就農とか法人とか多様な担い手はもちろんです、その多様な担い手の中にも、今まで頑張ってきた小規模農家、兼業農家も含まれますので、そこにも意識を向け、地域を守っていくという立場で、一緒にお考えいただけることが大切だと思います。遊休農地対策とか、小規模兼業農家対策は満足なことができてるわけではありませんが、一緒にこのような目線でやっていきたいと思っております。

<佐々木所長>

- ・小沢委員から、地域の食材、地場産物について、機会を捉えて、児童生徒への食育という点で、ご尽力いただいていることを大変ありがたくお聞きしました。また、今回3年に1回の小学校5年生と中学2年生を対象とした実態調査をされるということで、ぜひ結果を教えていただきながら、こちらからも情報提供させていただきたいと思います。食育につきましては引き続き一緒に取組をしてみたいと思います。
- ・河合委員からは農産物加工というお立場からご意見いただきましたたけのこの関係については、地域振興局林務課と一緒に竹の活用という課題があり、メンマ加工に着目して取り組んでいます。情報はお伝えしたいと思います。
- ・松江委員から、特に小規模を農家、兼業農家が多く、こういった皆様方が地域の農業の担い手として重要だとのご意見でした。多様な担い手という表現をしていますが、その中には当然そういった皆様方も意識をしているところですので、次期計画に向けてまた検討してみたいと思います。

<農地整備課 市瀬課長>

- ・原委員からの竜東一貫水路の件につきまして、当該施設は昭和40年代から県が造成してきたものですが、その後は土地改良区が、基本的に農業者からの賦課金で維持されており、その取組に敬意を表します。築造後半世紀を経過しており、命の水ということもありますので、引き続き県の方で保全してみたいと思っております。
- ・小水力発電は再生可能エネルギーとして、非常に重要なことで、持てる資源を持てる技術でこれから農業にも活用することも考えていくべきだと思っております。基本的にエネルギー政策は県環境部ですが、農政部としましても、農業用水を活用した小水力発電を今研究しています。平成25年に一度、大規模な水路の可能性調査を実施しております。今年からこの中小規模の水路でも発電できないかと、県農政部で調査しますので、その結果をお示ししながら、活用できるものは活用してみたいと考えております。
- ・農業の担い手として農業生産法人を期待したいというご提言でございますが、りんご高密度植栽培の団地を造成して、法人が頑張っている事例で、県でも一部補助しているところもありますので、多様な担い手として一緒に考えてみたいと思っております。